

吉屋信子記念館のことと「フォーラム K」

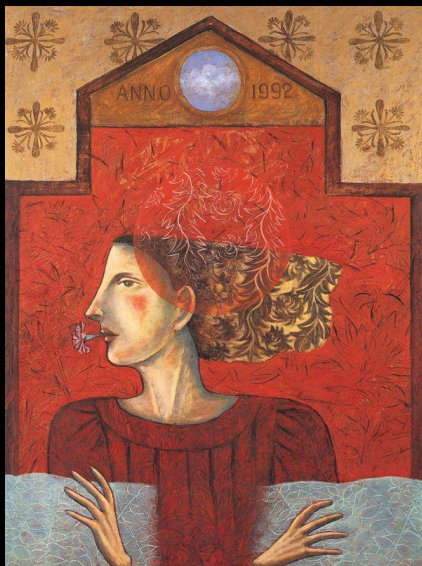
2006年に鎌倉にある吉屋信子記念館に自作の絵画作品2点を寄贈しました。

若い世代の方は吉屋信子の名前を知らないかもしれませんが、彼女は大正、昭和期に活躍した大変有名な女流作家でした。テレビがなかった時代、信子の人気は有名女優並みに抜群でした。初期の少女小説時代に名前をなした信子は、やがて大人を対象とした小説を書くようになり、新聞の連載小説など、多くの作品を書きました。またすぐれたエッセイや評伝、純文学作品をたくさん残し、晩年には歴史小説の分野に挑戦して女性を主人公とした歴史小説を書きました。

吉屋信子は私の叔母にあたりますが、叔母と私の現世での縁は比較的短いものでした。私が生まれたのは戦争末期の昭和20年ですが、生まれて40日ほどで東北に疎開し、横浜に戻ってきたのが昭和29年(1954年)、私が9歳の春でした。それから昭和40年(1965年)にオランダに旅立つまでのほぼ十一年間に、叔母とはまだ少女として何度か会っただけでした。私が画家になったこと、作家になったことは叔母の影響が大きいわけですが、私がオランダから初めて帰国した昭和48年7月××日は奇しくも叔母が病没した後で葬儀の当日でした。



<若き頃の吉屋信子(上)と鎌倉の吉屋信子記念館(下)>



<(右上)寄贈した絵画の一点、1992年作の油彩「フローラ」>

その叔母への追慕と感謝を籠めて、2006年に二点の作品を旧吉屋信子邸だった記念館に寄贈しました。その折に鎌倉市への橋渡しの労をとってくれた旧友たち数人が集まって、「フォーラム K」という会を作りました。Kは私のイニシャルのK、鎌倉市のK、そして絆とか縁を意味する Knot のKからとったものです。



2007年11月27日 第1回「フォーラムK」の集い 於 吉屋信子記念館

その時の発起人を含めた会員は約20名でしたが、嬉しいことにその数は年毎に増えていっています。会員は様々な分野で活躍する多彩な人たちで、講演を通して会員相互の知的好奇心の高揚と刺激、あわせて親睦を深めようという趣旨でスタートしました。2007年に第一回フォーラムをゆかりの吉屋信子記念館で行い、私が信子の思い出と関わりについて講演しました。

以来毎年フォーラムの会合が持たれていますが、今年2012年の定期講演会は、来る12月8日(土)午後1時から4時まで、竹橋毎日新聞社の「毎日ホール」で開催されます。「ネーテルラントの昼の夢 – 第二部」というタイトルで私がお話しますが、アートにご興味をお持ちの方皆さまお誘いで是非ご参加ください。

2012年10月 <吉屋 敬>